

# 相同システムとしての人間の脳とコミュニティ：21世紀の社会学理論

## ——東九州における事例研究——

金沢大学名誉教授 二宮哲雄

**1. 目的** 「存在 (Sein)」について明示するのは、人類にとって宿命ともいえる課題に他ならない。

20世紀には、「哲学」が、自らの手法によって、解明し、回答を出した。

「社会学 (Sociology)」も、専門科学 (特殊科学) の一翼を担うものとして、その問題に取り組み、様々の解答を用意し、世に問うたのであった。

社会学は普遍的な一般論でなく、(個人一人間)、家族、村落、都市、国民社会・国家、および世界社会と言った現実的な、具体的な課題を掲げて、その問題にアプローチして来たのであった。

21世紀になった。私は、そうした20世紀までの、人類の人間解明の成果を整理してみることにした。その結果人類による人間の本質的 (根源的) 要素の解明の理論を整理することが出来た。

私はさらに進んで、そのような人間の本質的 (根源的) 要素が一つ乃至2つのものの中に含まれていることも見つけた。こうして私の「相同システムとしての人間の脳とコミュニティ」の理論が発見され、創発されることになったのである。

本報告では、先ずその私の理論的発見について明らかにしたい。次にそれを実証することを目的とするものである。

**2. 方法** 続いて私は、私の創造理論を事実によって語らしめるため、フィールド・ワーク (field work) を行なうことにした。私の現地調査の対象となったのは、東九州における新市である。平成の大合併によって誕生した大分県由布市が対象となる。とりわけその中の「挟間町」および「下市自治区」が事例対象となる。現在私自身が住んで生活している所なので、資料は統計による大量観察の外、参与観察が有力な方法となる。

**3. 結果** 平成の大合併によって生まれた新市は、その誕生の経緯並びに実態に、20世紀の市町村合併とは異なった様相があることが明らかになった。つまり既成の大都市あるいは都市に、周辺農村が合併されると言う形態では説明できない実態を示しているのである。それらのことを現地の事実によって明らかにすることが出来る。

**4. 結論** 平成の大合併によって生まれた新市は、その誕生の経緯並びに実態に、極めて「複雑性」を帯びていることが明らかになった。われわれは、「複雑系に科学」によってしかその実態を明らかにすることが出来ないであろう。

一般に、理論的にいえば、「21世紀は複雑系の科学の世紀」となるものと考えられる。

なおここで付け加えておけば、私の創造理論である”Brain-Community Theory”を原理として、われわれは、人類史上初となる「機械」を作製し、コミュニティの調査と改革や、人間の脳の解明と治療に役立たせることが出来よう。